

## 学会刊行物の新刊紹介

現場技術者のための土と基礎シリーズ14

## 「土質調査計画—その合理的な計画の立て方—」の発行に当たって

土質調査計画—その合理的な計画の立て方—編集委員会 委員長 奥園誠之

土質工学会では、昭和53年に「土質調査の計画と適用」という実務書を出版しています。これは当学会刊行の「土質調査法」の応用編ともいえるべきものであります。

以来10年経過し、その間の地盤工学の進歩は目を見張るものがあり、それに伴い土質、地質調査技術も進歩し、結果の解釈、解析技術も高度化して来ています。

しかし、いっぽう、現場では、業務の多様化に伴い諸基準や指針、要領から一歩も出られない“マニュアルエンジニア”や“ハンドブックエンジニア”が増えつつあることも事実で、結果的に“調査のための調査”に終わってしまう例がしばしば見受けられます。

本書はこのような背景から旧版を踏襲しながら、新しい技術を取り入れ、しかも設計、施工に直結した合理的な調査計画の立て方について解説した現場技術者のための実務書であります。

本書の特徴は次のとおりです。

- i) 土砂地盤を中心とするが一部軟岩も取り扱う。したがって土質が中心であるが地質構造をも加味している。
- ii) 発注者、受注者いずれも実務者（経験5～10年）が実際に計画書を作成できるような解説書である。
- iii) 具体的な実例を多く取り入れ、調査頻度についても言及している。

## 目次および執筆者

## 第1章 総論（奥園誠之・今村遼平・浅岡 顕）

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 1.1 土質調査の役割 | 1.4 調査の適用と頻度  |
| 1.2 土質調査の流れ | 1.5 調査密度と設計精度 |
| 1.3 地盤の基礎知識 | 1.6 データベースの利用 |

## 第2章 建築基礎および根切り・山留め（青木 功）

- 2.1 調査の目的と手順
- 2.2 調査計画の立て方
- 2.3 建築物の耐震性評価を目的とした地盤調査
- 2.4 調査計画実施例
- 2.5 おわりに

## 第3章 橋梁基礎（塩井幸武・大日向尚巳）

- 3.1 調査の目的と手順
- 3.2 調査計画の立て方
- 3.3 橋梁の耐震性評価を目的とした地盤調査
- 3.4 調査計画実施例
- 3.5 おわりに

## 第4章 土構築物（石井恒久・奥原正由）

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 4.1 調査の目的と手順 | 4.3 調査計画実施例 |
| 4.2 調査計画の立て方 | 4.4 おわりに    |

## 第5章 トンネル（山本征彦・垣内幸雄）

- 5.1 はじめに
- 5.2 シールドトンネル工法
- 5.3 山岳トンネル工法

5.4 おわりに

## 第6章 港湾構造物（善 功企・小林茂雄）

- 6.1 調査の目的と手順
- 6.2 港湾における土質調査の特殊性と留意点
- 6.3 調査計画
- 6.4 港湾施設の耐震性評価を目的とした土質調査
- 6.5 調査計画実施例
- 6.6 おわりに

## 第7章 特殊構造物—原子力発電所の例

（江刺靖行・本荘静光）

- 7.1 調査の目的・手順
- 7.2 調査計画の立て方
- 7.3 調査計画実施例—主な地盤の調査・計画の例
- 7.4 おわりに

## 第8章 耐震設計のための地盤調査（安田 進）

- 8.1 調査の目的と手順
- 8.2 調査計画の立て方
- 8.3 調査計画実施例
- 8.4 おわりに

## 付録（磯貝光章・岩崎恒明）

- I 我が国における土質調査に関する主なスペックの一覧
- II 施工計画書

A 5判 344 ページ 昭和63年2月15日発行

定価 4,100円, 会員特価 3,200円, 送料 350円

発行：土質工学会 東京都千代田区神田淡路町2-23（菅山ビル4階）〒101 電話 03-251-7661（代）